

Sun Server X4-2L

Windows Server オペレーティングシステムインストールガイド

Copyright © 2013 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ, AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	5
最新のソフトウェアとファームウェアの入手	5
このドキュメントについて	5
関連ドキュメント	5
フィードバック	6
サポートとアクセシビリティ	6
1. Microsoft Windows Server オペレーティングシステムのインストールについて	7
Windows OS のインストールタスクマップ	7
サポートされている Windows オペレーティングシステム	8
Windows Server 2008 SP2 用の LSI 大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA	9
コンソール表示オプションの選択	9
コンソール表示オプション	9
▼ ローカルコンソールを設定する	10
▼ リモートコンソールを設定する	10
ブートメディアオプションの選択	11
ブートメディアオプションの要件	11
▼ ローカルブートメディアオプションを設定する	12
▼ リモートブートメディアオプションを設定する	12
インストール先オプションの選択	13
インストール先のオプション	13
▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する	14
▼ インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する	14
Windows OS のインストールオプション	14
サーバー 1 台構成のインストール方法	15
補助付き OS インストール	15
手動による OS インストール	15
Windows 展開サービスの OS インストール	15
Oracle System Assistant の概要	16
Oracle System Assistant のタスク	16
「Get Updates」および「Install OS」タスク	17
Oracle System Assistant の取得	17
2. オペレーティングシステムのインストールの準備	19
BIOS の設定	19
▼ BIOS の出荷時デフォルトを検証する	19
▼ Legacy BIOS と UEFI BIOS を切り替える	21
RAID の構成	23

3. Windows Server オペレーティングシステムのインストール	25
準備作業	25
Oracle System Assistant を使用した Windows Server の単一システムへのインストール	26
▼ Oracle System Assistant を使用した Windows Server の単一システムへのインストール	26
メディアを使用した Windows Server の単一システムへのインストール	29
▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) のインストール	29
▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2012 のインストール	38
▼ PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) または Windows Server 2012 のインストール	47
4. Windows Server のインストール後のタスク	51
追加ソフトウェアコンポーネントオプション	51
デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール	52
▼ サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする	53
Intel NIC チーミングの構成	53
索引	55

このドキュメントの使用方法

このインストールガイドでは、Windows オペレーティングシステムのインストール手順と、Oracle の Sun Server X4-2L を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。

このドキュメントは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (ASP)、およびオペレーティングシステムのインストールについての経験を持つユーザーを対象としています。

このセクションでは、最新のソフトウェアとファームウェア、ドキュメントとフィードバック、およびサポートとアクセシビリティ情報の入手方法を説明します。

- [5 ページの「最新のソフトウェアとファームウェアの入手」](#)
- [5 ページの「このドキュメントについて」](#)
- [5 ページの「関連ドキュメント」](#)
- [6 ページの「フィードバック」](#)
- [6 ページの「サポートとアクセシビリティ」](#)

最新のソフトウェアとファームウェアの入手

各 Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシ用のファームウェア、ドライバ、その他のハードウェア関連ソフトウェアは定期的に更新されます。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant – これは、工場出荷時にインストールされる Oracle x86 サーバー向けの新しいオプションです。必要なすべてのツールとドライバが含まれており、サーバーに組み込まれています。
- My Oracle Support: <http://support.oracle.com>
- 物理メディアの申請

詳細は、『*設置*』のサーバーファームウェアとソフトウェア更新の入手に関するトピックを参照してください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。情報は (オンラインヘルプと同様の) トピック単位の形式で提供されるので、章、付録、セクション番号はありません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF バージョンを生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle ドキュメント	http://www.oracle.com/documentation

ドキュメント	リンク
Sun Server X4-2L	http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs
Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド	http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Hardware Management Pack 2.2	http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs

フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックは、次の場所ですenderことができます。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com
	聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html

1

・・・第 1 章

Microsoft Windows Server オペレーティングシステムのインストールについて

このセクションでは、サーバーに新しい Microsoft Windows Server 2008 または Windows Server 2012 オペレーティングシステム (OS) をインストールする手順の概要を示します。

説明	リンク
Windows オペレーティングシステムのインストール手順について学習します。	7 ページの「Windows OS のインストールタスクマップ」
サポートされている Windows オペレーティングシステムについて学習します。	8 ページの「サポートされている Windows オペレーティングシステム」
SAS HBA のストレージドライバ要件について学習します。	9 ページの「Windows Server 2008 SP2 用の LSI 大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA」
コンソール表示オプションとそれらの設定方法について学習します。	9 ページの「コンソール表示オプションの選択」
ブートメディアオプションとそれらの設定方法について学習します。	11 ページの「ブートメディアオプションの選択」
インストール先オプションとそれらの設定方法について学習します。	13 ページの「インストール先オプションの選択」
オペレーティングシステムのインストールオプションについて学習します。	14 ページの「Windows OS のインストールオプション」
Oracle System Assistant について学習します。	16 ページの「Oracle System Assistant の概要」

関連情報

- ・ [25 ページの「Windows Server オペレーティングシステムのインストール」](#)

Windows OS のインストールタスクマップ

次の表に、Windows Server オペレーティングシステムのインストール手順を示し、説明します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none">・ 『設置』、「サーバーのラックへの設置」・ 『設置』、「サーバーの配線」・ 『設置』、「Oracle ILOM への接続」

手順	説明	リンク
2.	Windows インストールメディアを入手します。	http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/default.aspx
3.	プロダクトノートを確認します。	『Sun Server X4-2L プロダクトノート』(http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs)
4.	インストールの実行に使用するコンソール、ブートメディア、インストール先を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 9 ページの「コンソール表示オプションの選択」 11 ページの「ブートメディアオプションの選択」 13 ページの「インストール先オプションの選択」
5.	BIOS を確認し、必要に応じて構成します。	19 ページの「BIOS の設定」
6.	Windows OS をインストールします。	<ul style="list-style-type: none"> 26 ページの「Oracle System Assistant を使用した Windows Server の単一システムへのインストール」 29 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) のインストール」 38 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2012 のインストール」 47 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) または Windows Server 2012 のインストール」
7.	インストール後のタスクを適宜実行します。	51 ページの「Windows Server のインストール後のタスク」

関連情報

- 19 ページの「オペレーティングシステムのインストールの準備」

サポートされている Windows オペレーティングシステム

サーバーは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

Windows OS	版
<ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2008 SP2 	<ul style="list-style-type: none"> Standard Edition (64 ビット) Enterprise Edition (64 ビット) Datacenter edition (64 ビット)
<ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2008 R2 SP1 	<ul style="list-style-type: none"> Standard Edition (64 ビット) Enterprise Edition (64 ビット) Datacenter edition (64 ビット)
<ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2012 	<ul style="list-style-type: none"> Standard Edition (64 ビット) Enterprise Edition (64 ビット) Datacenter edition (64 ビット)

さらに、サポートされているその他のオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールすることもできます。サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全なリストについては、<http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs> にある最新バージョンの『Sun Server X4-2L プロダクトノート』を参照してください。サポートされているオペレーティングシステムの一覧は、<http://wikis.oracle.com/display/SystemsComm/Sun+Server+X4-2L++Operating+Systems> でも確認できます。

関連情報

- [25 ページの「Windows Server オペレーティングシステムのインストール」](#)

Windows Server 2008 SP2 用の LSI 大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA

次の表に、このドキュメントの発行時点で サーバー でサポートされている SAS PCIe ホストバスアダプタ (HBA) オプションを示します。サーバー上にこれらの SAS PCIe HBA オプションのいずれかを構成し、Microsoft Windows Server 2008 SP2 をインストールする場合は、PCIe HBA オプション用の LSI 大容量ストレージドライバを読み込む必要があります。この LSI 大容量ストレージドライバは、内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブで使用でき、Oracle System Assistant にはこれを読み込むためのツールが用意されています。

表1.1 大容量ストレージドライバを必要とする、サポートされている SAS PCIe HBA

サポートされている SAS PCIe HBA	オプション番号	インストール中に必要なドライバ
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA (内蔵)	SG-SAS6-R-INT-Z	LSI MegaRAID SAS 92xx-xx
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (内蔵)	SG-SAS6-INT-Z	LSI Adapter SAS 2008 Falcon
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (外付け)	SG-SAS6-EXT-Z	LSI Adapter SAS 2008 Falcon

Windows Server 2008 SP2 のインストール中に LSI 大容量ストレージドライバをロードする手順については、[29 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 \(SP2 または R2 SP1\) のインストール」](#)の手順 8 を参照してください。

サーバーに内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブが搭載されていない場合は、LSI 大容量ストレージドライバを含む ISO イメージをダウンロードできます。ダウンロード手順については、『[設置](#)』、「[サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手](#)」を参照してください。

コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためにコンソールを接続するオプションについて説明します。

- [9 ページの「コンソール表示オプション」](#)
- [10 ページの「ローカルコンソールを設定する」](#)
- [10 ページの「リモートコンソールを設定する」](#)

コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末

端末を、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続した端末エミュレータに接続することもできます。

- ビデオポート (VGA) と 2 つの背面 USB コネクタに直接接続した VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への Secure Shell (SSH) クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

1. ローカルコンソールを接続するには、次のいずれかを実行します。
 - 直接または端末エミュレータを介して、シリアル管理ポート (SER MGT) に端末を接続します。
 - VGA モニター、キーボード、マウスをビデオポート (VGA) と USB ポートに接続します。
2. シリアル管理ポート (SER MGT) 接続の場合のみ、ホストシリアルポートへの接続を確立するには:
 - a. Oracle ILOM のユーザー名およびパスワードを入力します。
 - b. Oracle ILOM ログインプロンプトで、次を入力します。

-> **start /HOST/console**

シリアル管理ポート出力は、Linux ホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ

▼ リモートコンソールを設定する

1. サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。

コマンド行インタフェースまたは Web インタフェースのどちらかを使用して Oracle ILOM にリモートからログインするには、サーバーのサービスプロセッサ (SP) の IP アドレスを知っている必要があります。手順については、『[設置](#)』、「サーバー SP の IP アドレスの確認」を参照してください。
2. Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、これらの手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
 - a. Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。
 - b. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
 - c. Oracle ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。

-
- d. 必要に応じて、「Devices」メニューでデバイスのリダイレクト (マウス、キーボードなど) を有効にします。
3. SSH クライアント接続を使用している場合は、これらの手順を実行します。
 - a. シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します (**ssh root@hostname**。ここでは、hostname はサーバー SP の DNS 名または IP アドレス)。
 - b. Oracle ILOM にログインします。
 - c. 次を入力して、シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。

-> **start /HOST/console**

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ

ブートメディアオプションの選択

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。このセクションでは、サポートされているメディアソースと各ソースのセットアップ要件について説明します。

- [11 ページの「ブートメディアオプションの要件」](#)
- [12 ページの「ローカルブートメディアオプションを設定する」](#)
- [12 ページの「リモートブートメディアオプションを設定する」](#)

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- [11 ページの「ローカルブートメディアの要件」](#)
- [11 ページの「リモートブートメディアの要件」](#)

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

サポートされている OS のローカルブートメディアソースには、次のものがあります：

- CD/DVD-ROM インストールメディア
- 該当する場合は、フロッピーデバイスドライバメディア

リモートブートメディアの要件

リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールをブートする必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものがあります。

- CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア
- CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージ、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア
- 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要)。サポートされている Windows Server オペレーティングシステムでの PXE ネットワークのインストール手順については、[47 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 \(SP2 または R2 SP1\) または Windows Server 2012 のインストール」](#)を参照してください。

▼ ローカルブートメディアオプションを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、次のいずれかのオプションを使用して、Windows Server OS インストールメディアが格納されているストレージデバイスをサーバーに装着する必要があります。

1. サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバー前面の DVD ドライブに Windows Server OS インストール DVD を挿入します。それ以外の場合は、次の手順に進みます。
2. サーバーに DVD ドライブがない場合は、サーバー前面または背面の外部 USB ポートの 1 つに、Windows Server OS インストールメディアが格納された USB フラッシュドライブを装着します。



注記

サーバーの外部 USB ポートの場所については、『[設置](#)』の「サーバーの機能とコンポーネント」を参照してください。

▼ リモートブートメディアオプションを設定する

リモートの場所にあるメディアから OS をインストールするには、これらの手順を実行します。

1. リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、これらの手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
 - a. OS ブートメディアをマウントまたは認識させてアクセスできるようにします。例:
 - **CD/DVD-ROM** の場合、内蔵または外付け CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。
 - **CD/DVD-ROM ISO** イメージの場合、ネットワーク共有された場所で ISO イメージがすぐに利用できることを確認します。
 - **デバイスドライバフロッピーの ISO** イメージの場合、ISO イメージが (該当する場合) ネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐに利用できることを確認します。
 - b. サーバー Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。

詳細は、[9 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。

- c. Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Devices」メニューで、次のようなブートメディアの場所を指定します:
 - **CD/DVD-ROM** ブートメディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。
 - **CD/DVD-ROM ISO** イメージブートメディアの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。
 - **フロッピーデバイスドライバブートメディア**の場合は、「Floppy」を選択します (該当する場合)。
 - **フロッピーイメージのデバイスドライバブートメディア**の場合は、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。
2. PXE を使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。
 - a. PXE ブートを使用して、インストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを構成します。
 - b. OS インストールメディアを PXE ブートで利用できるようにします。

自動 OS インストールイメージを使用する場合は、自動 OS インストールイメージを作成して提供する必要があります。

インストールのセットアッププロセスを自動化する詳しい手順については、Windows オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

- c. インストールメディアをブートするには、サーバーの BIOS 「Boot Device」メニューで、一時ブートデバイスとして PXE ブートインタフェースカードを選択します。

PXE ネットワークブートを使用した Windows Server のインストールの詳細は、[47 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 \(SP2 または R2 SP1\) または Windows Server 2012 のインストール」](#)を参照してください。

インストール先オプションの選択

このセクションでは、インストール先を設定する方法について説明します。

- [13 ページの「インストール先のオプション」](#)
- [14 ページの「ローカルストレージドライブ \(HDD または SSD\) をインストール先として設定する」](#)
- [14 ページの「インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する」](#)

インストール先のオプション

組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (Oracle System Assistant 用に予約されている) を除き、サーバーに取り付けたどのストレージドライブにもオペレーティングシステムをインストールできます。これらにはハードディスクドライブ (HDD) と半導体ドライブ (SSD) があります。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けの FC ストレージデバイスにインストールすることも選択できます。



注記

SSD は Oracle Engineered Systems でしかサポートされません。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する

- HDD または SSD が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。
HDD または SSD の取り付けおよび電源投入方法の詳細は、『サービス』、「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。

▼ インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する

1. サーバーに PCIe ホストバスアダプタ (HBA) が正しく取り付けられていることを確認します。
PCIe HBA オプションの取り付け方法については、『サービス』、「PCIe カードの保守 (CRU)」を参照してください。
2. Storage Area Network (SAN) をインストールおよび構成して、サーバーホストでストレージデバイスが認識されるようにします。
手順については、ファイバチャネル HBA 付属のドキュメントを参照してください。

Windows OS のインストールオプション

OS は、単一のサーバーまたは複数のサーバーにインストールするよう選択できます。このドキュメントの適用範囲は、単一のサーバーでの OS のインストールです。次の表に、2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用して、複数のサーバー上に OS をインストールできます。詳細は、 http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html にアクセスしてください
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、OS を単一のサーバーにインストールします。 <ul style="list-style-type: none">• ローカル: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されます。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。• リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されます。Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、手動による OS のインストールを実行します。

注記

Oracle は、単一サーバーでの OS のインストールには Oracle System Assistant を使用することをお勧めします。

単一サーバーに OS をインストールする方法と Oracle System Assistant の詳細については、次を参照してください:

- [15 ページの「サーバー 1 台構成のインストール方法」](#)
- [16 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

サーバー 1 台構成のインストール方法

Windows インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します (推奨)。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、Windows 配布メディア。詳細は、 15 ページの「補助付き OS インストール」 を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します (推奨)。	Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、リダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および Windows 配布メディア。詳細は、 15 ページの「補助付き OS インストール」 を参照してください。
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 – サーバーに接続された物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、Windows 配布メディア。詳細は、 15 ページの「手動による OS インストール」 を参照してください。
リモートでの CD/DVD ドライブまたは CD/DVD の ISO イメージの使用 – Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上の、リダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを実行しているリモートシステム、物理 CD/DVD ドライブが接続されていること、Windows 配布メディア、サーバーの管理ポートに対するネットワークアクセス。詳細は、 15 ページの「手動による OS インストール」 を参照してください。
WDS WIM イメージ – Windows 展開サービス (WDS) サーバー上のカスタマイズされた Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用します。	WDS を実行しているサーバー、使用しているサーバー用にカスタマイズされた WIM イメージ。詳細は、 15 ページの「Windows 展開サービスの OS インストール」 を参照してください。

補助付き OS インストール

これは、サポートされている OS をサーバーにインストールするための推奨される方法です。この方法では、Oracle System Assistant を使用します。ローカルまたはリモートのどちらかの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージで Windows OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant がインストールプロセスを進め、必要に応じて必要なドライバを収集しインストールします。Oracle System Assistant は、使用しているサーバーでサポートされている必要があり、そのサーバーにインストールされている必要があります。

手動による OS インストール

この方法では、Windows 配布メディアをローカルまたはリモートのどちらかの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージで提供します。必要なドライバをインストールする必要もあります。サーバー用のドライバは、サーバー内蔵の Oracle System Assistant フラッシュドライブ (取り付けられている場合) に用意されており、My Oracle Support の Web サイトから OS 固有およびサーバー固有のパッケージとして、または ISO イメージファイルとして入手することもできます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

Windows 展開サービスの OS インストール

展開サーバー環境から Windows OS をインストールできます。上級ユーザーは、Windows 展開サービス (WDS) が動作しているシステムに、使用しているサーバー用にカスタマイズされた

Windows Imaging Format (WIM) イメージを作成できます。こうしたインストールイメージファイルを作成しておく、サーバーをそのネットワークカードからブートし、無人展開用に WDS システムからそのイメージを選択することが可能です。WDS の詳細は、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc770667%28WS.10%29.aspx> にアクセスしてください。

Oracle System Assistant の概要

Oracle System Assistant は、Oracle x86 サーバー向けの単一サーバーシステム管理ツールです。それは、Oracle のシステム管理製品、Oracle System Assistant アプリケーション、および選り抜きの関連ソフトウェアを統合して、サーバーを迅速かつ簡単に構成および保守できるようにするツール群を提供します。

Oracle System Assistant には、ローカルコンソール接続を使用してローカルからアクセスすることも、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してリモートからアクセスすることもできます。

サーバーのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant を (物理的にサーバーにいる間に) ローカルで使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に構成できます。サーバーが動作すると、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです。

- Oracle System Assistant アプリケーション
- Oracle Hardware Management Pack
- 構成と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- Oracle System Assistant のコマンド行環境
- オペレーティングシステム用のドライバとツール
- サーバー固有のファームウェア
- サーバー関連ドキュメント

Oracle System Assistant は、組み込みストレージデバイスとしてサーバー内部に存在し、出荷時にサーバー固有のバージョンのツールおよびドライバを使用して構成されており、オンライン更新を使用して保守が行われます。

Oracle System Assistant の詳細については、次のトピックを参照してください。

- [16 ページの「Oracle System Assistant のタスク」](#)
- [17 ページの「「Get Updates」および「Install OS」タスク」](#)
- [17 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant の詳細は、*Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

Oracle System Assistant のタスク

Oracle System Assistant アプリケーションには、もっとも一般的かつ有用な単一サーバー管理プロビジョニングタスク一式が選択され、まとめられています。

次の情報やタスクは、迅速で便利なサーバーの設定と継続的なサーバー管理を可能にします。

- システムの概要とシステムインベントリ情報
- すべてのコンポーネント (ツール、ドライバ、ファームウェアなど) のオンラインアップデートの取得
- システムファームウェア (BIOS および Oracle ILOM) とホストバスアダプタファームウェアの更新
- RAID、Oracle ILOM、および BIOS 構成
- 補助付き OS インストール
- ネットワーク構成
- 機能と組み込まれたメディア整合性チェックの無効化
- 多言語キーボード
- 実行時環境を使用可能にする Oracle System Assistant シェル端末ウィンドウ
- Oracle Hardware Management Pack へのアクセス (Oracle System Assistant シェルを使用)
- Oracle System Assistant の復旧

「Get Updates」および「Install OS」タスク

Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバとほかのファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、および該当する場合はエキスパンダ) を更新する場合は、OS をインストールする前に「Get Updates」タスクを実行するようにしてください。

Oracle System Assistant アプリケーションの「Install OS」タスクを実行すると、サポートされている OS をガイドに従ってインストールできます。OS インストールメディアを用意すれば、Oracle System Assistant が示す手順に従ってインストールプロセスを実行できます。続いて、サーバーハードウェア構成に基づいて、適切なドライバをフェッチします。OS のインストールタスクは、サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムに使用できるわけではありません。OS のインストールタスクは、サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムに使用できるわけではありません。

Oracle System Assistant の取得

Oracle System Assistant がサーバーでサポートされているため、Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブがすでにサーバーに取り付けられている可能性があります。取り付けられている場合、Oracle System Assistant の「Get Updates」タスクを使用して、最新のソフトウェアリリースに更新できます。Oracle System Assistant がサーバーにインストールされているが、破壊または上書きされている場合は、My Oracle Support サイトから Oracle System Assistant Updater イメージをダウンロードしてください。ダウンロード手順については、『[設置](#)』、「[サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手](#)」を参照してください。

サーバーに Oracle System Assistant が存在するかどうかの確認方法、および更新や復旧手順の実行方法については、*Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

関連情報

- *Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

・・・第 2 章

オペレーティングシステムのインストールの準備

このセクションでは、オペレーティングシステムをインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
BIOS の設定。	19 ページの「BIOS の設定」
サーバーで RAID を構成します。	23 ページの「RAID の構成」

BIOS の設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように、BIOS 設定が構成されていることを確認する必要があります。次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています。

- ・ [19 ページの「BIOS の出荷時デフォルトを検証する」](#)
- ・ [21 ページの「Legacy BIOS と UEFI BIOS を切り替える」](#)

関連情報

- ・ [26 ページの「Oracle System Assistant を使用した Windows Server の単一システムへのインストール」](#)
- ・ [29 ページの「メディアを使用した Windows Server の単一システムへのインストール」](#)

▼ BIOS の出荷時デフォルトを検証する



注記

サーバーを新しく設置し、オペレーティングシステムをはじめてインストールした場合、通常 BIOS はデフォルトに設定されていて、このタスクを実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティでは、デフォルトに設定できるほか、必要に応じて BIOS 設定を表示し編集できます。BIOS 設定ユーティリティ (F2) で変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 を使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 を使用することで、一時ブートデバイスを指定できます。F8 を使用して一時ブートデバイスを設定し

た場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 で指定した常時ブートデバイスが有効になります。

次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が搭載されています。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されています。手順については、『サービス』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、[9 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。

1. サーバーをリセットするか、電源を投入します。

たとえば、サーバーをリセットするには:

- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM CLI** で、プロンプトから次のコマンドを入力します。

```
-> reset /System
```

BIOS 画面が表示されます。



2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

3. 出荷時のデフォルト値に設定するために、次を実行します。

- a. F9 を押すと、出荷時のデフォルト設定が自動的にロードされます。

メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。

- b. メッセージで「OK」を強調表示して、Enter を押します。

BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、システム時間フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

4. BIOS 設定ユーティリティで次の手順を実行して、システム時間またはシステム日付に関する値を編集します。

- a. 変更する値を強調表示します。

上下の矢印キーを使用して、システムの時間と日付の選択を変更します。

-
- b. 強調表示された欄の値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が増加します
 - マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します
 - Enter を押すと、カーソルが次の値の欄に移動します
 5. ブート設定にアクセスするには、「Boot」メニューを選択します。
「Boot」メニューが表示されます。
 6. 「Boot」メニューで、「UEFI/BIOS Boot Mode」がインストールに適した値に設定されていることを検証します。
ブートモードを変更するには、上下の矢印キーを使用して「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、+/- キーを使用して「UEFI」と「Legacy」を切り替えます。
 7. 「Boot Settings」メニューで、下矢印キーを使用して「**Boot Device Priority**」を選択し、Enter を押します。
「Boot Device Priority」メニューが表示され、認識されているブートデバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、ブートの優先度がもっとも高いデバイスです。
 8. 「Boot Option Priority」メニューで次の手順を実行して、リストの最初のブートデバイスエントリを編集します。
 - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、Enter を押します。
 - b. 「Options」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時ブートデバイスを選択し、Enter を押します。



注記

変更する各デバイス項目に対して手順 8a および 8b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスのブート順を変更できます。

-
9. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 を押します。
または、「Save & Exit」メニューで「**Save and Reset**」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージダイアログで「**OK**」を選択して、Enter を押します。



注記

Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 はローカル OS にトラップされます。このため、リモートコンソールアプリケーションの上部にある「Keyboard」ドロップダウンメニューから「F10」オプションを使用する必要があります。

▼ Legacy BIOS と UEFI BIOS を切り替える

BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) BIOS の両方をサポートしています。デフォルトの設定は Legacy BIOS です。Windows Server 2008 および 2012 オペレーティングシステムは、レガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしているため、BIOS をレガシー BIOS ブートモードまたは UEFI BIOS ブートモードのいずれかに設定してからインストールを実行できます。



注記

Windows Server オペレーティングシステムをインストールしたあとで、レガシー BIOS から UEFI BIOS に、またはその逆に切り替えることにした場合、すべてのパーティションを削除して、オペレーティングシステムを再インストールする必要があります。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、サーバーをリセットするには:

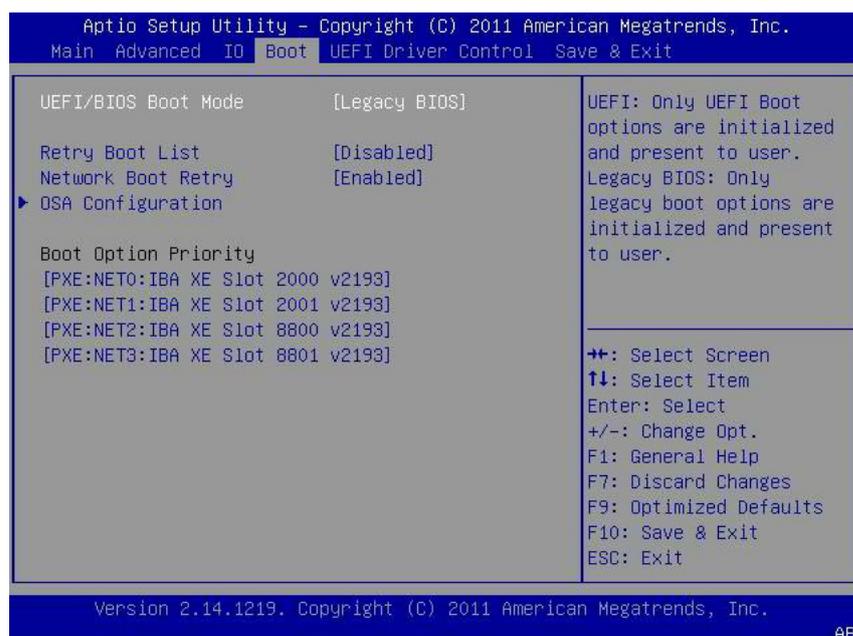
- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM CLI** で、プロンプトから次のコマンドを入力します。

```
-> reset /System
```

BIOS 画面が表示されます。



2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。
しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。
3. BIOS 設定ユーティリティで、上部のメニューバーから「Boot」を選択します。
「Boot」メニュー画面が表示されます。



4. 「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、+/- キーを使用して、UEFI に設定を変更します。
5. 変更を保存して BIOS を終了するには、F10 キーを押します。

RAID の構成

RAID 構成でサーバストレージドライブを構成する場合は、Windows OS をインストールする前に、サーバで RAID を構成してください。RAID を構成する手順については、『[設置](#)』、「OS インストール用のサーバドライブの構成」を参照してください。

関連情報

- *Oracle X4 シリーズサーバ管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

3

Windows Server オペレーティングシステムのインストール

このセクションでは、Microsoft Windows Server 2008 (SP2 および R2 SP1) または Windows Server 2012 オペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。

説明	リンク
OS のインストールを開始する前に。	25 ページの「準備作業」
Oracle System Assistant を使用した、Windows オペレーティングシステムのインストール。	26 ページの「Oracle System Assistant を使用した Windows Server の単一システムへのインストール」
メディアを使用した、Windows オペレーティングシステムのインストール。	29 ページの「メディアを使用した Windows Server の単一システムへのインストール」

準備作業

次の要件が満たされていることを確認します。

- ・ サーバーのストレージドライブで RAID (Redundant Array of Independent Disks) を構成する場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に行う必要があります。RAID を構成する手順については、『[設置](#)』、「OS インストール用のサーバードライブの構成」を参照してください。



注記

サーバーに Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (SGX-SAS6-R-INT-Z) が搭載されている場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に RAID ボリュームを作成してそれをブート可能にする必要があります。そうしないと、HBA がサーバーのストレージドライブを特定できなくなります。

- ・ BIOS 設定がデフォルトに設定されていることを確認します。BIOS 設定を検証し、必要に応じて設定する方法については、[19 ページの「BIOS の出荷時デフォルトを検証する」](#)を参照してください。
- ・ BIOS が、レガシー BIOS と UEFI BIOS のうち目的のモードに構成されていることを確認します。BIOS モードを設定する方法の手順については、[21 ページの「Legacy BIOS と UEFI BIOS を切り替える」](#)を参照してください。

- インストールの実行前に、コンソール表示オプションが選択および設定されている必要があります。このオプションと設定手順の詳細については、[9 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。
- ブートメディアオプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションと設定手順の詳細については、[11 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
- インストール先オプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションと設定手順の詳細については、[13 ページの「インストール先オプションの選択」](#)を参照してください。
- ローカルインストールの場合、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブに Windows インストールメディアを挿入します。
- リモートインストールの場合、Oracle ILOM リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブに Windows インストールメディアを挿入します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM」を選択していることを確認します。
- Windows イメージインストールの場合、Oracle ILOM リモートコンソールシステムから Windows ISO イメージにアクセスできることを確認します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM Image」を選択していることを確認します。
- Microsoft Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) または Windows Server 2012 オペレーティングシステムのドキュメントを取得して、このセクションの Windows Server オペレーティングシステムに関する説明と併せて参照してください。Microsoft の Windows Server 2008 および 2012 のインストールドキュメントは、<http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/default.aspx> で入手できます。

Oracle System Assistant を使用した Windows Server の単一システムへのインストール

サポートされる Microsoft Windows Server OS を サーバー にインストールする場合、Oracle System Assistant アプリケーションの「Install OS」タスクが推奨される方法です。

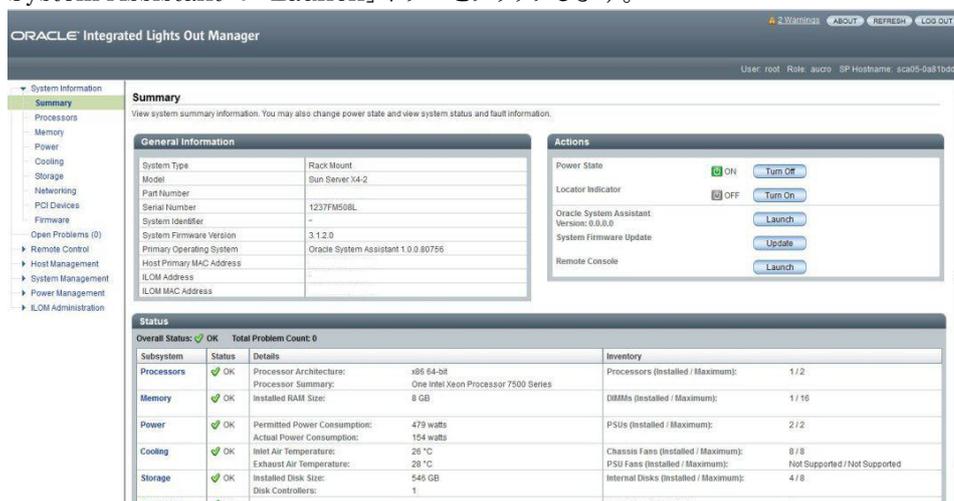
- [26 ページの「Oracle System Assistant を使用した Windows Server の単一システムへのインストール」](#)

▼ Oracle System Assistant を使用した Windows Server の単一システムへのインストール

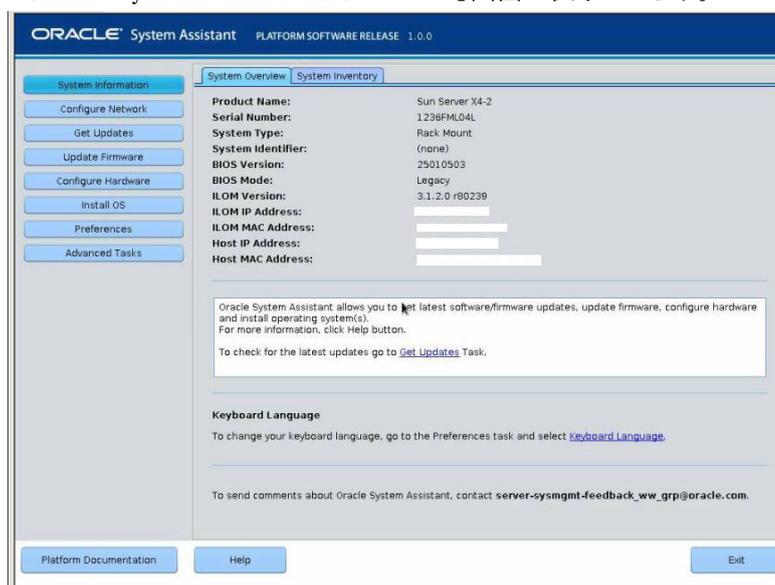
- [19 ページの「オペレーティングシステムのインストールの準備」](#)の手順を実行済み。
 - ブートドライブ (Windows Server OS のインストール先ストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、OS をインストールする前にそれを実行する必要があります。サーバーで RAID を構成する方法については、『[設置](#)』、「OS インストール用のサーバードライブの構成」を参照してください。
1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。
 - **ディストリビューション CD/DVD の場合。**Windows Server 配布メディア (番号 1 が付いた CD、または単一の DVD) をローカルまたは外付け USB CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - **ISO イメージの場合。**ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションが最初の ISO イメージの場所を認識していることを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細については、11 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。

2. Oracle ILOM インタフェース (推奨) から直接 Oracle System Assistant を起動するには、次の手順を実行します。それ以外の場合は、27 ページのステップ 3 に進みます。
 - a. Oracle ILOM Web インタフェースの「Actions」パネル (下を参照) で Oracle System Assistant の「Launch」ボタンをクリックします。



「Oracle System Assistant Overview」画面が表示されます。



- b. 28 ページのステップ 4 に進みます。
3. Oracle ILOM リモートコンソールと BIOS を使って Oracle System Assistant を起動するには、次の手順を実行します。
 - a. **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Summary」>「Launch Remote Console」をクリックします。

「Oracle ILOM Remote Console」画面が表示されます。

- b. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

例:

- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM CLI** で「**reset /System**」と入力します

Oracle ILOM リモートコンソールに BIOS 画面が表示されます。



注記

次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

- c. F9 キーを押します。

Oracle System Assistant の「System Overview」画面が表示されます。

4. 最新のソフトウェアリリースパッケージに更新するには、Oracle System Assistant の「Get Updates」ボタンをクリックします。
このアクションにより、OS のインストール開始前に、サーバーに最新のソフトウェアリリースパッケージが確実にインストールされます。



注記

Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。

5. サーバーのファームウェアを更新するには、「Update Firmware」ボタンをクリックします。
このアクションにより、OS のインストール開始前に、サーバーのファームウェアおよび BIOS が確実に最新のものになります。
6. OS をインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。
「Install OS」画面が表示されます。
7. 「Supported OS」ドロップダウンリストから OS を選択します。

8. 画面の「Select a BIOS mode if applicable」の部分で、OS のインストールに使用する BIOS モード (UEFI またはレガシー BIOS) を選択します。
9. 「Select your media location」セクションでインストールメディアの場所を指定します。これは OS 配布メディアの場所です。CD/DVD デバイスを選択できます。



注記

Oracle System Assistant は、PXE (Preboot eXecution Environment) インストールをサポートしません。

10. 「View Installation Options」をクリックします。
「Installation Options」ダイアログが表示されます。
11. 「Installation Options」ダイアログで、インストールしない項目を選択解除します。



注記

「Installation Options」ダイアログで、「OS」と「Drivers」のオプションは必須であり、選択解除できません。

12. 「Operating System Installation」画面の最下部にある「OS Install」ボタンをクリックします。
13. プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。

メディアを使用した Windows Server の単一システムへのインストール

このセクションでは、Windows Server 2008 および Windows Server 2012 (64 ビット) オペレーティングシステムのインストール手順について説明します。

- [29 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 \(SP2 または R2 SP1\) のインストール」](#)
- [38 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2012 のインストール」](#)
- [47 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 \(SP2 または R2 SP1\) または Windows Server 2012 のインストール」](#)

▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) のインストール

この手順では、ローカルまたはリモートのメディアから、Microsoft Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) オペレーティングシステムをブートする方法について説明します。次のいずれかのソースから Windows インストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Windows Server 2008 SP2 または Windows Server 2008 R2 SP1 CD または DVD
- Windows Server 2008 SP2 または Windows Server 2008 R2 SP1 ISO イメージ



注記

Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) ISO イメージは、リモートインストール、またはインストール CD/DVD の作成に使用できます。



注記

PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[47 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 \(SP2 または R2 SP1\) または Windows Server 2012 のインストール」](#)で手順を確認してください。

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。
 - **ディストリビューション CD/DVD の場合。**Windows Server 2008 配布メディア (番号 1 が付いた CD、または単一の DVD) をローカルまたはリモートの CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - **ISO イメージの場合。**ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションが ISO イメージの場所を認識していることを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細については、[11 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2. サーバーをリセットします。

例:

- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM CLI** で「`reset /system`」と入力します

BIOS 画面が表示されます。



注記

次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS 画面で、F8 を押して、Windows のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、BIOS をレガシーモードに構成したか UEFI モードに構成したかに応じて異なります。

- ・レガシー BIOS の場合、次のような画面が表示されます。

```
Please select boot device:
SATA:HDD:P4: DV-W28SS-V
SAS:PCIE1:Bus 00-1212BED9 HITACHI H10606
USB:USBIN:ORACLE SSM PMAP
SAS:PCIE1:Bus 00-120F06A5 HITACHI H10603
USB:VIRTUAL:AMI Virtual CDROM 1.00
USB:USB2:SAMSUNG CDRW/DVD SM-352FT950
PXE:NET0:IBA XE Slot 4000 v2181
PXE:NET1:IBA XE Slot 4001 v2181
PXE:NET2:IBA XE Slot 8800 v2181
PXE:NET3:IBA XE Slot 8801 v2181
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

- ・UEFI BIOS の場合、次のような画面が表示されます。

```
Please select boot device:
[UEFI]USB:USB2:USB USB CD/DVD Drive
[UEFI]USB:VIRTUAL:USB USB CD/DVD Drive
[UEFI]SATA:HDD:DV-W28SS-V
[UEFI]USB:USBIN:USB USB Hard Drive
[UEFI]PXE:NET0:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET1:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET2:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET3:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]Built-in EFI Shell
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

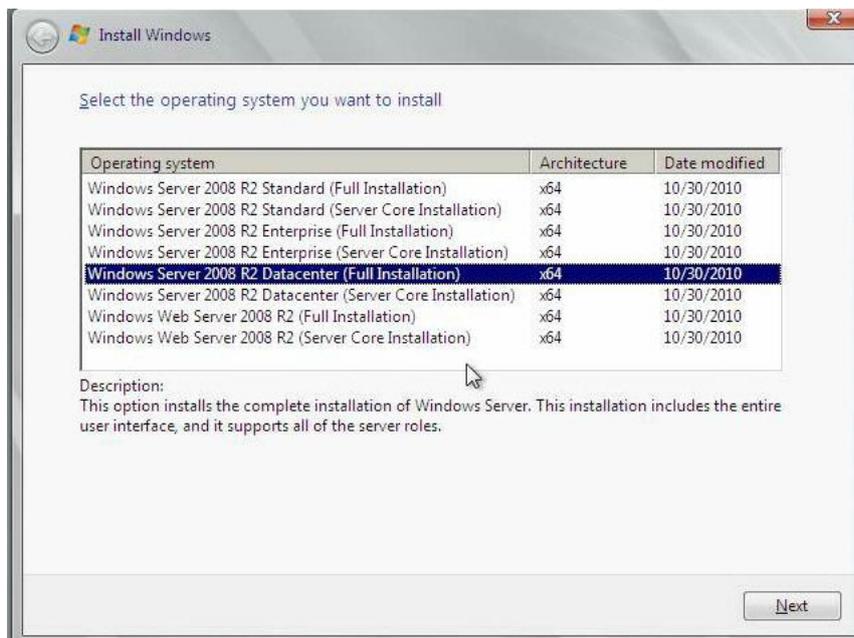


注記

インストール時に表示されるブートデバイスメニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用するように選択した Windows メディアのインストール方法と BIOS モードに応じたメニュー項目を選択し、Enter を押します。
例:
 - ・ Windows ローカル配布を選択した場合は、レガシー BIOS 画面から **SATA:HDD:P4 DV-W28SS-V** を選択するか、UEFI BIOS 画面から **[UEFI]USB2:USB USB CD/DVR Drive** を選択します。
 - ・ Oracle ILOM リモートコンソール配布を選択した場合は、レガシー BIOS 画面から **USB:VIRTUAL:AMI VIRTUAL CDROM 1.00** を選択するか、UEFI BIOS 画面から **[UEFI]USB:VIRTUAL:USB USB CD/DVD Drive** を選択します。

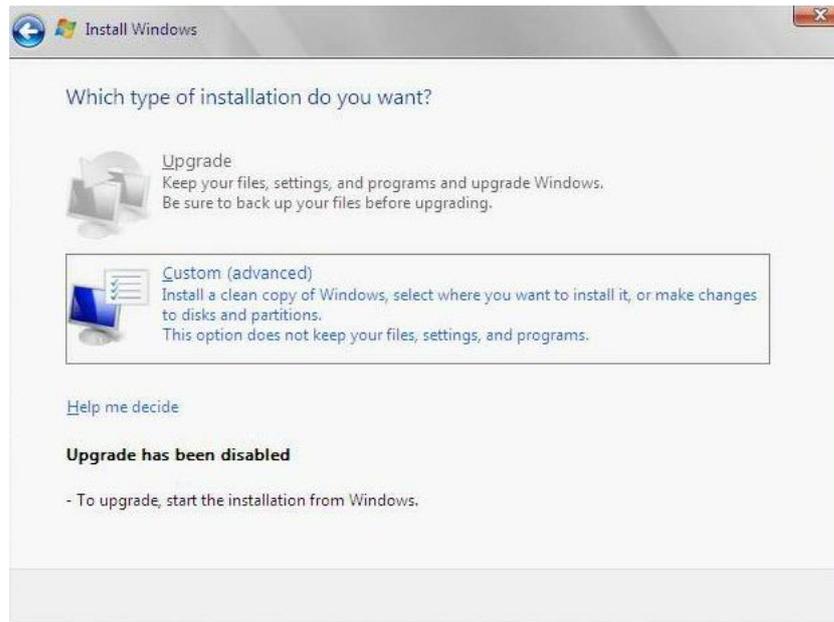
- 「Press any key to boot from CD」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーを押します。
Windows インストールウィザードが起動します。
言語ローカライゼーションのダイアログが表示されるまで、Windows インストールウィザードを続行します。
- 言語とほかの設定を選択して、「次へ」をクリックして続行します。
オペレーティングシステム選択のダイアログが表示されます。



注記

上記のダイアログは、Windows ソフトウェアライセンスの種類 (Educational, Volume, Retail) に応じて異なります。

- 「インストールするオペレーティングシステムを選択してください」ダイアログで目的のオペレーティングシステムを選択して、「次へ」をクリックして続行します。
インストールの種類ダイアログが表示されます。



8. インストールの種類ダイアログで、「カスタム (詳細)」をクリックします。「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログが表示されます。



9. 「Windows のインストール場所を選んでください」ダイアログで、次のいずれかのタスクを実行します。
 - (このタスクは、**Windows Server 2008 SP2** インストールのみに適用されます) ストレージ先が一覧表示されておらず、Sun Storage SAS PCIe RAID HBA オプションをサーバーで構成している場合は、「ドライバの読み込み」をクリックしてから、[34 ページのステップ 10](#)に進みます。または
 - オペレーティングシステムをインストールするストレージ先が表示されるが、そのストレージ先に関連付けられたデフォルトのパーティション設定を変更する場合は、ストレージ先を選

押し、「ドライブオプション (詳細)」をクリックしてから、36 ページのステップ 11 に進みます。

または

- オペレーティングシステムをインストールするストレージ先が表示され、そのストレージ先に関連付けられたデフォルトのパーティション設定を変更しない場合は、ストレージ先を選択し、「次へ」をクリックしてから、37 ページのステップ 12 に進みます。

10. 「ドライバの読み込み」「ドライバの読み込み」ダイアログで次を実行します。



- a. 選択したインストール方法に応じて、ドライバにアクセスできることを必ず確認してください (11 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照)。

例:

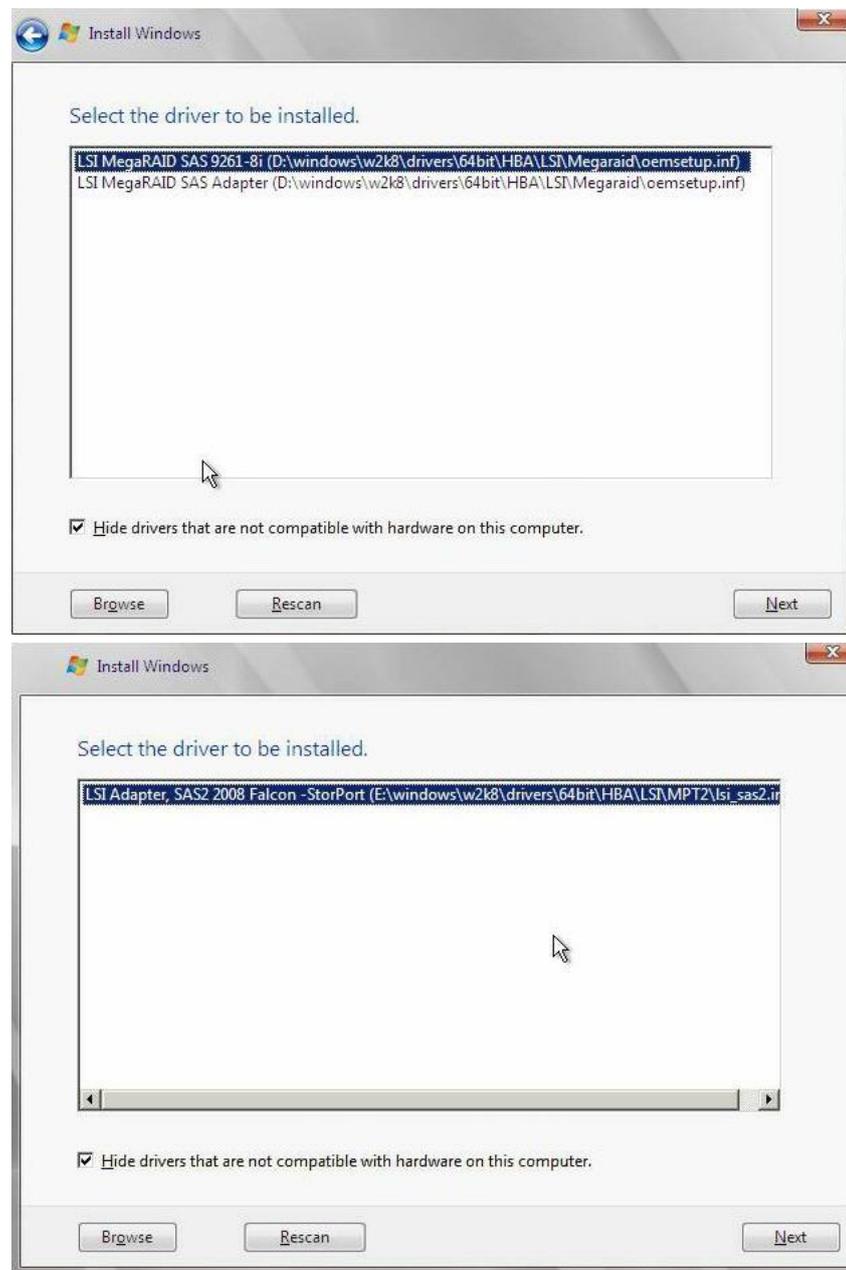
- ストレージドライバは、Oracle ILOM リモートコンソールからデバイスとしてマウントされたディスク上にあります。
 - ストレージドライバは、サーバーのシャーシ内に内蔵された Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (内蔵されている場合) などのローカル物理ストレージメディア、CD/DVD、または Oracle ILOM リモートコンソールからマウントされた仮想メディアにあります。
- b. 「ドライバの読み込み」ダイアログで「参照」をクリックし、次の説明に従って適切なドライバメディアフォルダに移動します。
- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA オプション (SG-SAS6-R-INT-Z) を使用して構成されたシステムの場合は、内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ上の次のディレクトリに移動して、適切な LSI ドライバをロードします。windows/w2k8/drivers/LSI-HBA-MegaSAS2
 - SG-SAS6-INT-Z か SG-SAS6-EXT-Z の Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA オプションを使用して構成されたシステムの場合は、内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ上の次のディレクトリに移動して、適切な LSI ドライバをロードします。windows/w2k8/drivers/LSI-HBA-MPT2

- c. 「フォルダを参照する」ダイアログで、適切なドライバを選択し、「OK」をクリックしてドライバをロードします。

「インストールするドライバを選択してください」ダイアログに、選択したドライバが表示されます。

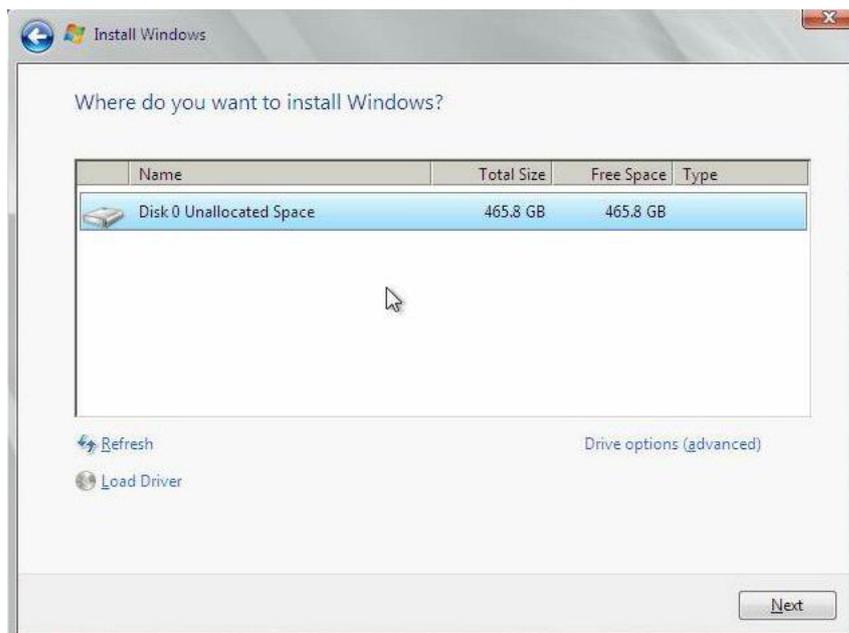
例:

- 次の 2 つのダイアログの例は、2 つの SAS PCIe HBA オプション用にインストールするよう選択したドライバを示しています。SAS PCIe HBA ドライバは、Windows Server 2008 SP2 インストールにのみ必要です。



- d. 「インストールするドライバを選択してください」ダイアログで、「次へ」をクリックしてドライバをインストールします。

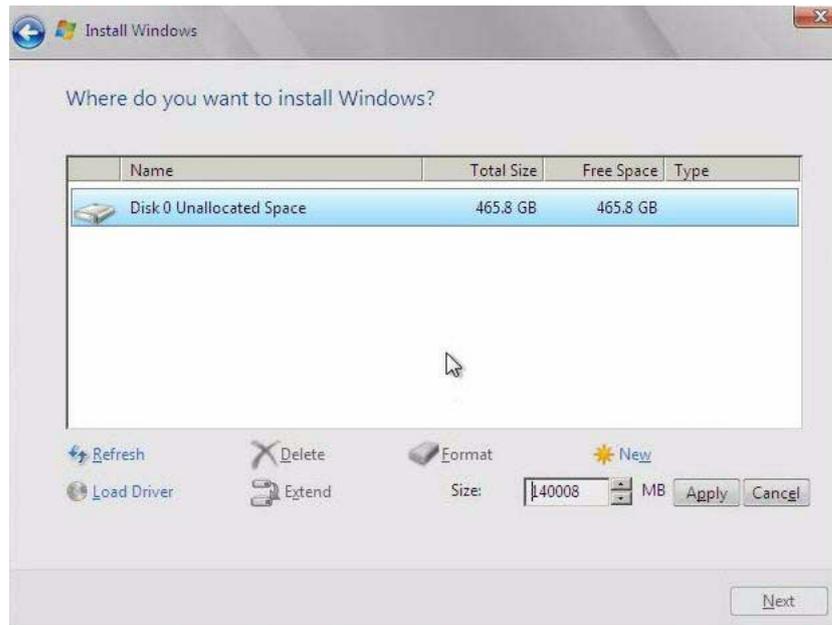
「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログが表示されます。



注記

ここまでで内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブからドライバを読み込むために Windows Server インストールメディアを取り出したりマウント解除したりした場合は、「このディスクに **Windows** をインストールすることはできません」というメッセージが表示されることがあります。このメッセージが表示された場合は、Windows インストールメディアを挿入または再マウントして、「**最新の状態に更新**」をクリックしてください。

- e. 「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログで、次のいずれかの操作を実行します:
 - 一覧表示されているストレージ先を選択し、「次へ」をクリックしてオペレーティングシステムをインストールしてから、[37 ページのステップ 12](#)に進みます。
- または
- ターゲットディスクにパーティションが存在する場合は、セットアップで適切なパーティションを作成できるようにしておくことをお勧めします。既存のパーティションを削除するには、[36 ページのステップ 11](#)に進みます。
11. (パーティションドライブ、詳細) 「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログの下部で、次の手順を実行します:



- a. 「削除」をクリックして、選択したストレージ先が存在するパーティション構成を削除します。
確認のウィンドウが表示されます。
 - b. 「OK」をクリックして、パーティションの削除を確定します。
 - c. ターゲットディスクにさらにパーティションが存在する場合は、[37 ページのステップ 11.a](#)と[37 ページのステップ 11.b](#)を繰り返します。
 - d. 「次へ」をクリックして、選択したストレージ先にオペレーティングシステムをインストールします。
12. Windows インストールプログラムが開始され、インストールプロセス中にサーバーが複数回リブートします。
 13. Windows のインストールが完了すると、Windows が起動し、ユーザーパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。
 14. ユーザーパスワードのダイアログで「OK」をクリックし、初期のユーザーログインアカウントを設定します。



注記

Windows Server 2008 では、ユーザーアカウントに対して厳格なパスワードスキームが適用されます。パスワードの規格には、長さ、複雑さ、および履歴に関する制限が含まれています。詳細は、アカウント作成ページの「ユーザー補助」リンクをクリックしてください。

初期ユーザーアカウントが作成されると、Windows Server 2008 のデスクトップが表示されます。

15. [51 ページの「Windows Server のインストール後のタスク」](#)に進み、インストール後のタスクを実行します。

▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2012 のインストール

この手順では、ローカルまたはリモートのメディアから、Microsoft Windows Server 2012 オペレーティングシステムをブートする方法について説明します。次のいずれかのソースから Windows インストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Windows Server 2012 CD または DVD
- Windows Server 2012 ISO イメージ



注記

Windows Server 2012 の ISO イメージを使用して、リモートインストールを実行したり、インストール CD または DVD を作成したりできます。



注記

PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[47 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 \(SP2 または R2 SP1\) または Windows Server 2012 のインストール」](#)で手順を確認してください。

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。
 - **ディストリビューション CD/DVD の場合。**Windows 2012 配布メディア (番号 1 が付いた CD、または単一の DVD) をローカルまたはリモートの CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - **ISO イメージの場合。**ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションが ISO イメージの場所を認識していることを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細については、[11 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2. サーバーをリセットします。

例:

- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
 - **Oracle ILOM Web インタフェース**で、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
 - **Oracle ILOM CLI** で「`reset /system`」と入力します
- BIOS 画面が表示されます。



注記

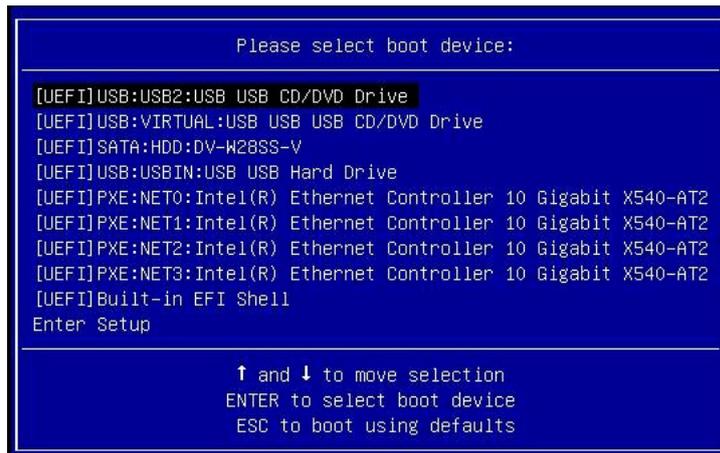
次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS 画面で、F8 を押して、Windows のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、BIOS をレガシーモードに構成したか UEFI モードに構成したかに応じて異なります。

- ・ レガシー BIOS の場合、次のような画面が表示されます。



- ・ UEFI BIOS の場合、次のような画面が表示されます。

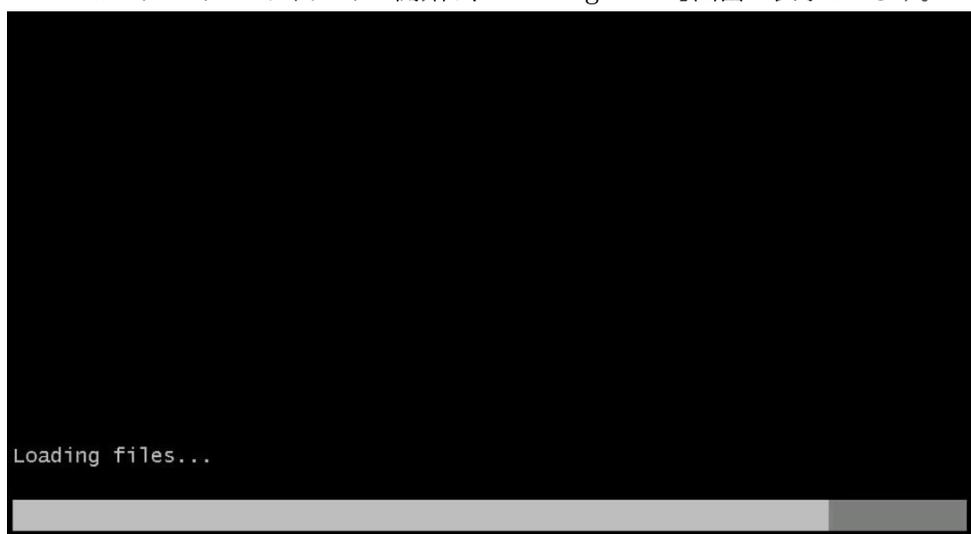


注記

インストール時に表示されるブートデバイスメニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用するよう選択した Windows メディアのインストール方法と BIOS モードに応じたメニュー項目を選択し、Enter を押します。
例:
 - Windows ローカル配布を選択した場合は、レガシー BIOS 画面から **SATA:HDD:P4 DV-W28SS-V** を選択するか、UEFI BIOS 画面から **[UEFI]USB2:USB USB CD/DVR Drive** を選択します。
 - Oracle ILOM リモートコンソール配布を選択した場合は、レガシー BIOS 画面から **USB:VIRTUAL:AMI VIRTUAL CDROM 1.00** を選択するか、UEFI BIOS 画面から **[UEFI]USB:VIRTUAL:USB USB CD/DVD Drive** を選択します。
5. 「Press any key to boot from CD」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーを押します。

Windows インストールウィザードが開始し、「Loading files...」画面が表示されます。



Windows インストールウィザードが進み、言語ローカリゼーションのダイアログが表示されます。

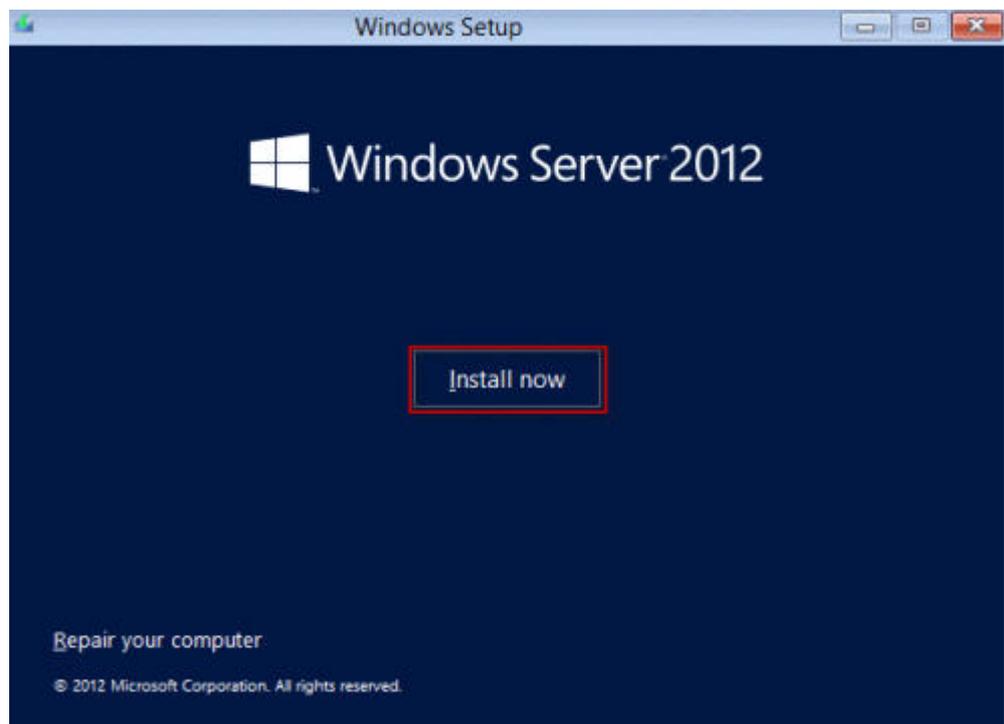


6. 言語とほかの設定を選択して、「次へ」をクリックして続行します。
「今すぐインストール」画面が表示されます。

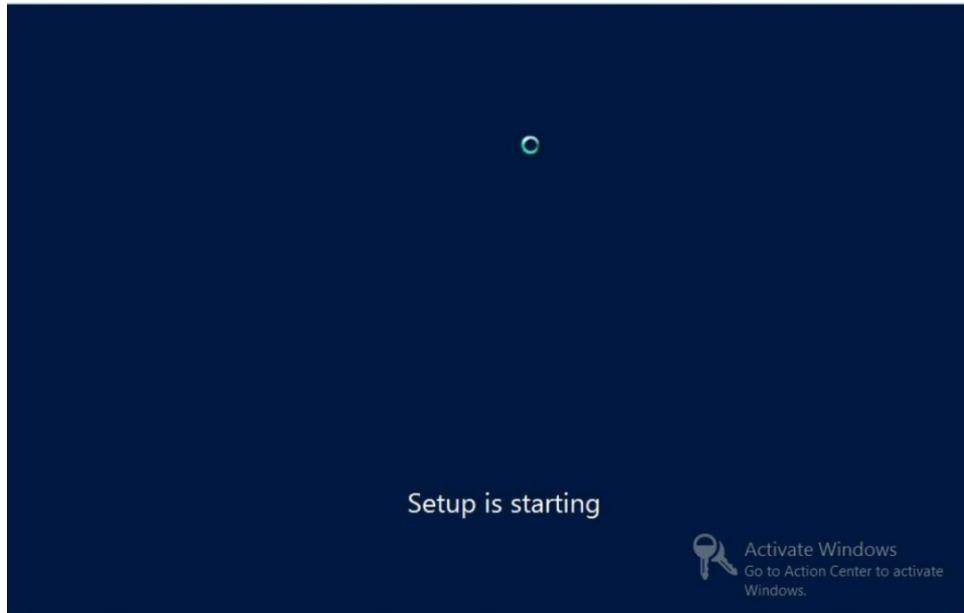


注記

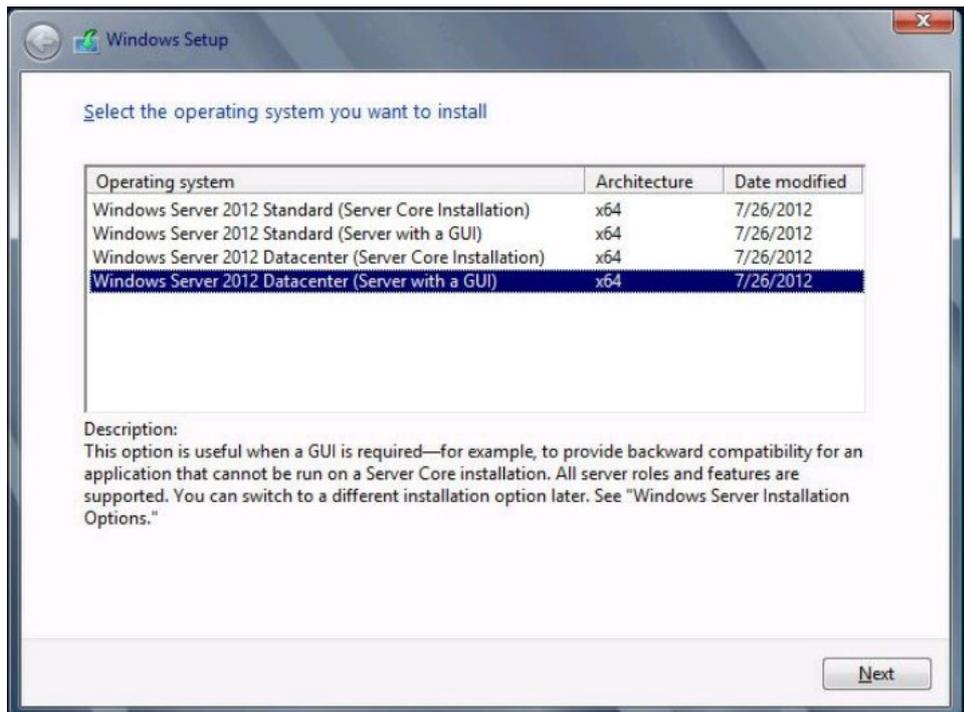
「今すぐインストール」画面では、インストールを続行するほか、オプションの修復メニュー (画面の左下を参照) にアクセスしてトラブルシューティングを行うことも可能です。



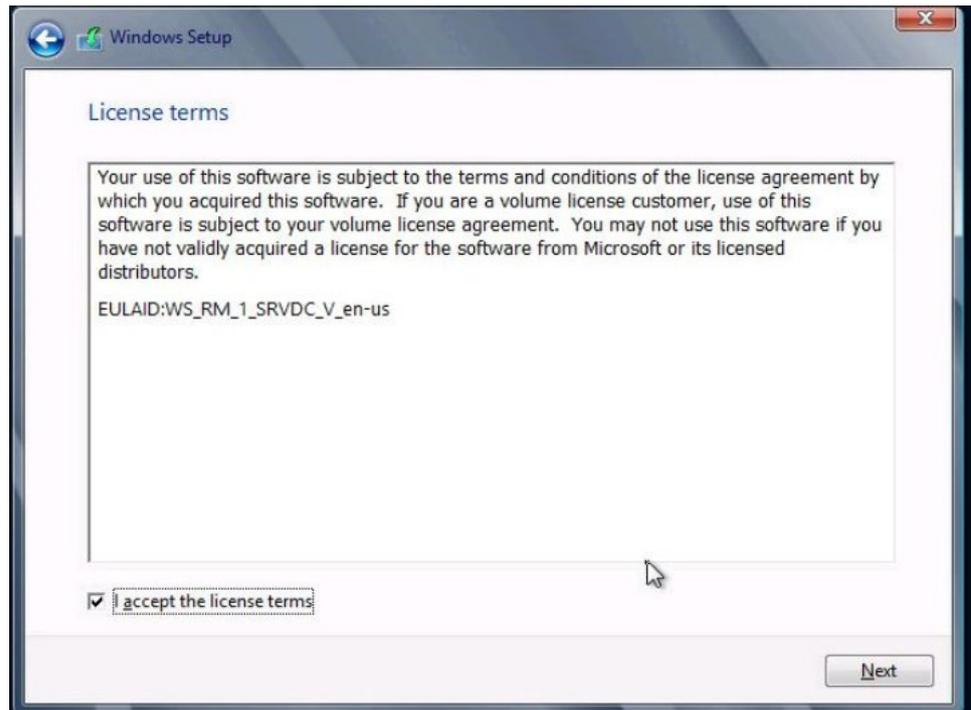
- 「今すぐインストール」をクリックします。
「セットアップを始めています」画面が表示されます。



オペレーティングシステム選択のダイアログが表示されます。

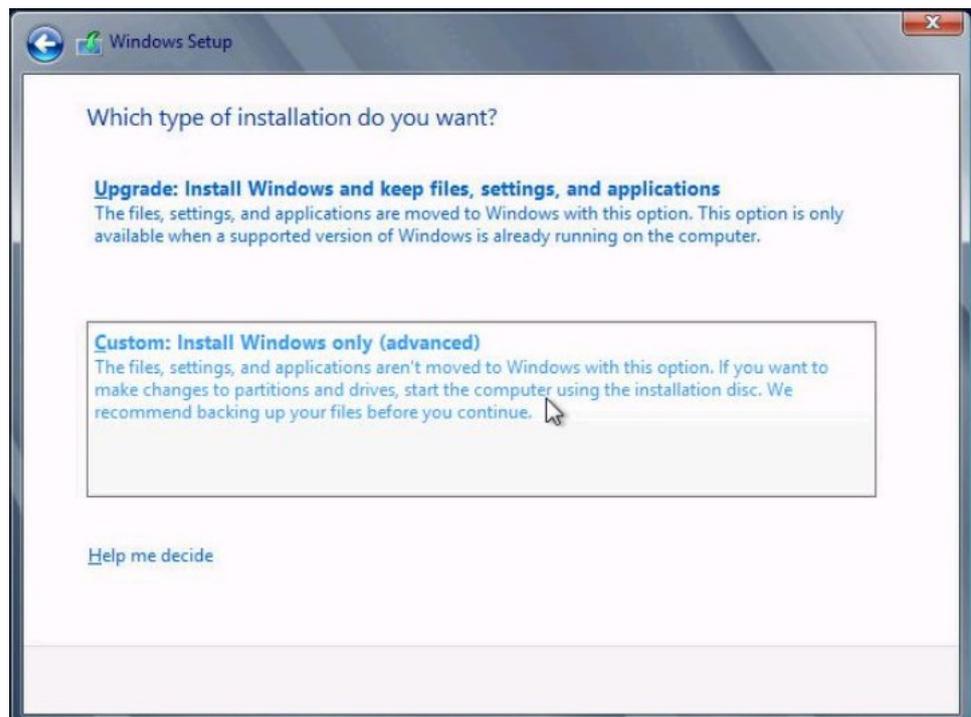


- オペレーティングシステム選択のダイアログで目的のオペレーティングシステムを選択して、「次へ」をクリックして続行します。
通常のインストールでは、リストの最下部にある「Windows Server 2012 Datacenter (GUI 使用サーバー)」を選択します。
Windows オペレーティングシステムのさまざまなタイプの詳細は、Windows 2012 のドキュメント (<http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/default.aspx>) を参照してください。
「ライセンス条項」画面が表示されます。

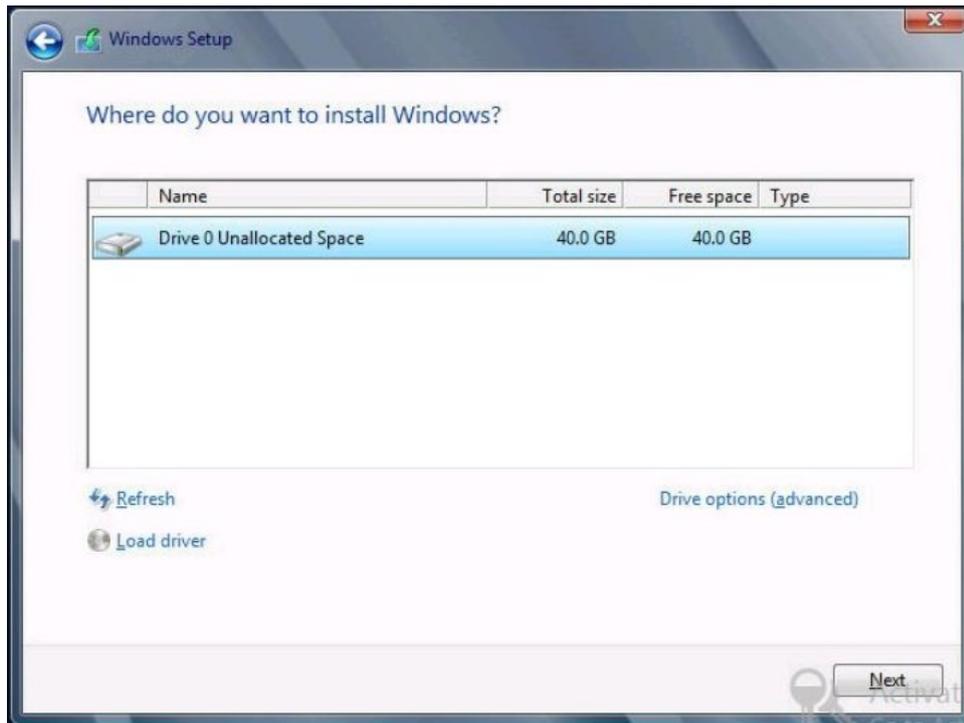


9. 「ライセンス条項」画面で、「条項に同意します」チェックボックスを選択し、「次へ」をクリックして続行します。

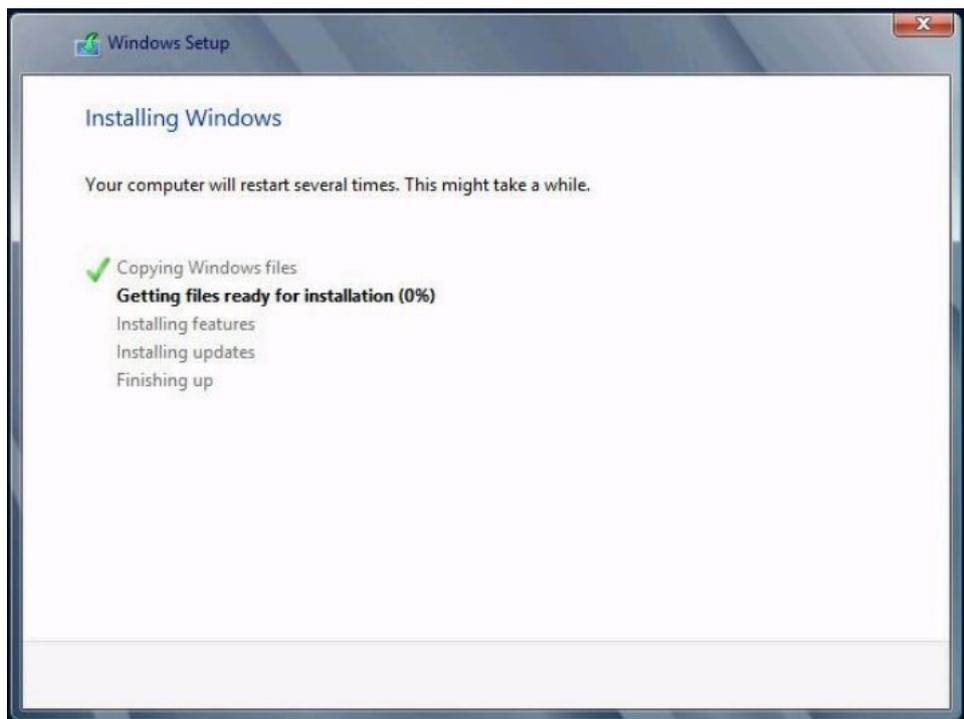
「インストールの種類を選んでください」ダイアログが表示されます。



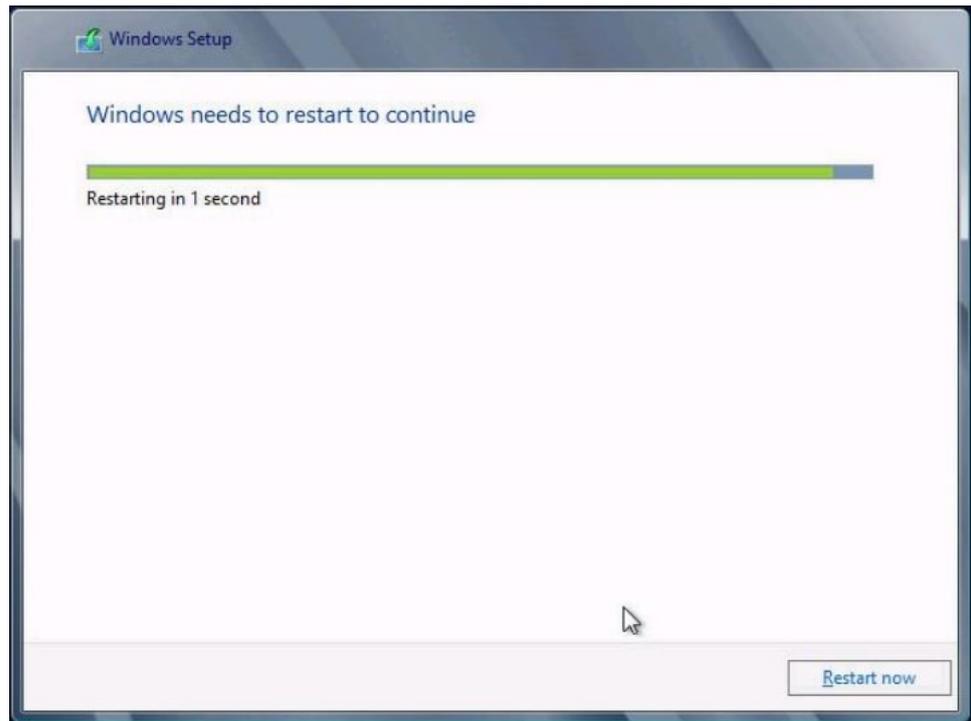
10. 新規インストールでは、「インストールの種類を選んでください」ダイアログで「カスタム: Windows のみをインストールする (詳細設定)」をクリックします
「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログが表示されます。



11. Windows をインストールするディスクを選択 (強調表示) し、「次へ」をクリックします。「Windows をインストールしています」画面が表示されます。

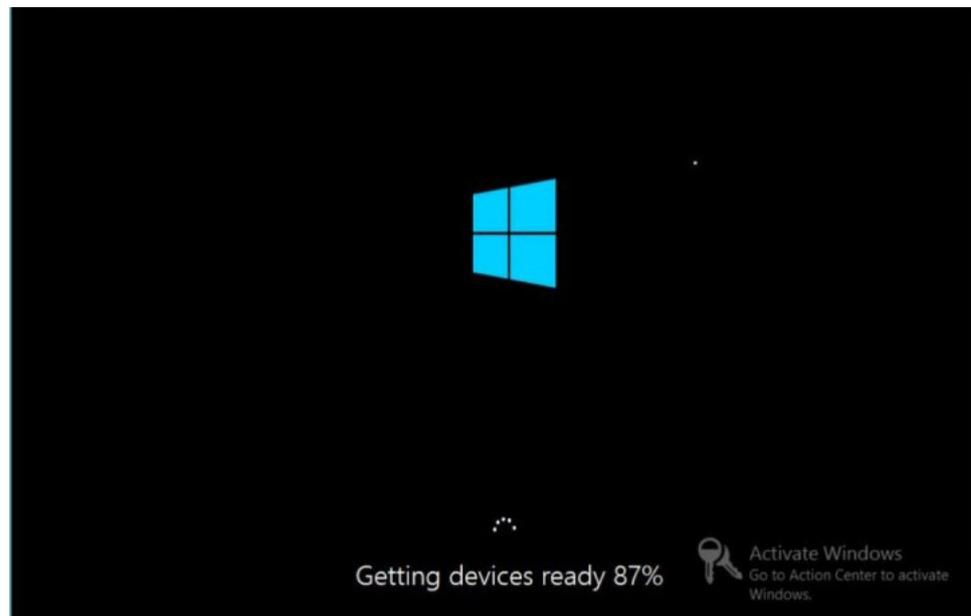


セットアップとインストールのプロセスが開始し、ファイルが宛先にコピーされます。「続けるには、Windows を再起動する必要があります」画面が表示されます。

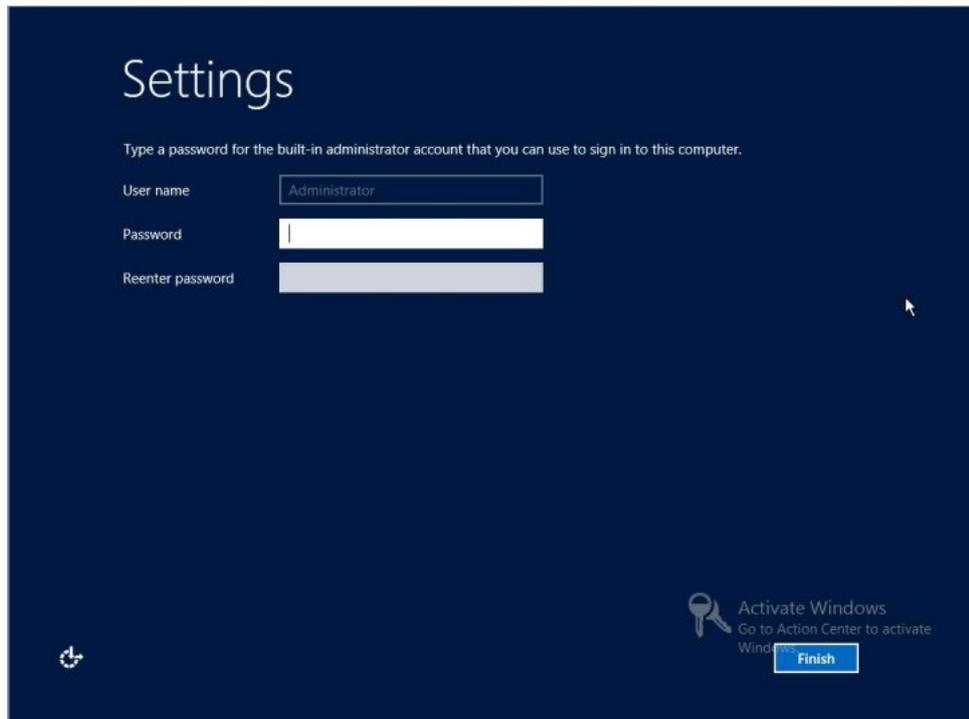


システムがリブートします。

12. システムのリブート後、「デバイスの準備中」画面が表示され、Windows インストールウィザードがデバイス設定を構成します。



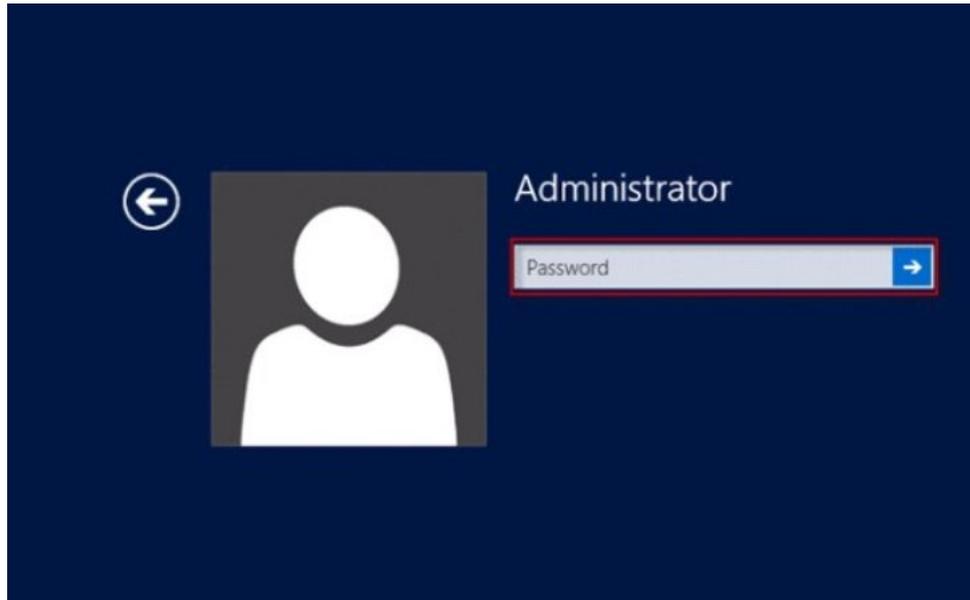
デバイスの構成後にシステムがふたたびリブートし、「設定」画面が表示されます。



13. 管理者ユーザー名とパスワードを入力し、「完了」をクリックします。
「もう少しで完了します」画面が表示されます。
この画面は、Windows がインストールされたことを示しています。



14. インストールの完了後、Ctrl+Alt+Delete を押してログインします。
「Administrator」ログイン画面が表示されます。



15. 管理者のパスワードを入力し、矢印をクリックしてログインします。
Windows Server 2012 のデスクトップが表示されます。
これでインストールが完了します。
16. [51 ページの「Windows Server のインストール後のタスク」](#)に進み、インストール後のタスクを実行します。

▼ PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) または Windows Server 2012 のインストール

このセクションでは、お客様提供の Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用し、確立された PXE ベースのネットワークを介して Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) または Windows Server 2012 オペレーティングシステムをインストールするために必要となる初期情報について説明し、従う必要のある手順を示します。

このセクションで説明する手順は、Windows 展開サービス (WDS) を使用してネットワーク経由で Windows Server をインストールするための最初の手順です。具体的には、WDS インストールサーバーと通信するサーバー PXE ネットワークインタフェースカードを選択する手順について説明します。WDS を使用した Windows Server 2008 または Windows Server 2012 のインストールの詳細は、Windows 展開サービスに関する Microsoft のドキュメントを参照してください。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作が必要です:
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。



注記

ローカルネットワークに必要な DHCP サーバーは 1 つだけであるため、DHCP サーバーの構成が不要な場合もあります。

- PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。

- PXE 構成からブートするように、サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
- 動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を構成します。
- WDS を使用してインストールを実行するには、次の操作が必要です:
 - 必要なシステムデバイスドライバを `install.wim` イメージ、および必要に応じて `boot.wim` イメージに追加します。

WIM インストールイメージにドライバを追加する手順については、Microsoft Windows 展開サービスのドキュメントを参照してください。

- WIM の管理者パスワードを取得します。
1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、Windows インストールメディアを PXE ブートで使用できることを確認します。
 2. サーバーをリセットします。
たとえば、サーバーをリセットするには:
 - ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
 - **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
 - サーバー **SP** の **Oracle ILOM CLI** で「`reset /System`」と入力します。BIOS 画面が表示されます。



注記

次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、一時ブートデバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、BIOS をレガシーモードに構成したか UEFI モードに構成したかに応じて異なります。
 - レガシー BIOS の場合、次の画面が表示されます。

```
Please select boot device:

SATA:HDD:P4: DV-W28SS-V
SAS:PCIE1:Bus 00-1212BED9 HITACHI H10606
USB:USBIN:ORACLE SSM PMAP
SAS:PCIE1:Bus 00-120F06A5 HITACHI H10603
USB:VIRTUAL:AMI Virtual CDROM 1.00
USB:USB2:SAMSUNG CDRW/DVD SM-352FT950
PXE:NET0:IBA XE Slot 4000 v2181
PXE:NET1:IBA XE Slot 4001 v2181
PXE:NET2:IBA XE Slot 8800 v2181
PXE:NET3:IBA XE Slot 8801 v2181
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

- UEFI BIOS の場合、次の画面が表示されます。

```
Please select boot device:

[UEFI]USB:USB2:USB USB CD/DVD Drive
[UEFI]USB:VIRTUAL:USB USB CD/DVD Drive
[UEFI]SATA:HDD:DV-W28SS-V
[UEFI]USB:USBIN:USB USB Hard Drive
[UEFI]PXE:NET0:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET1:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET2:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET3:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]Built-in EFI Shell
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```



注記

インストール時に表示されるブートデバイスメニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプによって異なる場合があります。

4. 「Boot Device」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように構成されたネットワークポートを選択します。
ネットワークブートローダーが読み込まれ、ブートプロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルのロードが開始されます。
5. インストールを完了するには、インストールする Windows Server のバージョンに応じて次のいずれかを実行します。
 - Windows Server 2008 については、[29 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 \(SP2 または R2 SP1\) のインストール」の32 ページのステップ 5](#) を参照してください。
 - Windows Server 2012 については、[38 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2012 のインストール」の40 ページのステップ 5](#) を参照してください。

・・・第 4 章

Windows Server のインストール後のタスク



注記

このセクションの手順では、手動手順を使用して、つまり Oracle System Assistant を使用せずに、Microsoft Windows Server オペレーティングシステムをインストールしていることを前提としています。Oracle System Assistant を使用してオペレーティングシステムをインストールした場合は、Oracle System Assistant がインストール後のタスクを代わりに実行しているので、このセクションを飛ばしてかまいません。

Windows Server 2008 オペレーティングシステム (SP2 または R2 SP1) または Windows Server 2012 の手動インストールを完了してサーバーをリブートしたあとで、次に示すインストール後のタスクを確認し、必要に応じてサーバーに当てはまるタスクを実行してください。

説明	リンク
追加ソフトウェアについて。	51 ページの「追加ソフトウェアコンポーネントオプション」
デバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールします。	52 ページの「デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール」
NIC チーミングを構成します。	53 ページの「Intel NIC チーミングの構成」

追加ソフトウェアコンポーネントオプション

Oracle System Assistant は、複数の追加ソフトウェアコンポーネントをサーバーで使用できるようにします。インストールには次の 2 つのオプションがあります。

- Typical: 使用しているサーバーに適用可能なすべての追加ソフトウェアをインストールします。
- Custom: 選択した追加ソフトウェアのみをインストールします。

次の表に、Oracle System Assistant によってサーバーで使用可能になるオプションの追加ソフトウェアコンポーネントを示します。

表4.1 オプションの追加ソフトウェア

使用可能な追加ソフトウェアコンポーネント	LSI 統合 RAID コントローラ
LSI MegaRAID Storage Manager	通常

使用可能な追加ソフトウェアコンポーネント	LSI 統合 RAID コントローラ
SAS 内蔵 RAID ホストバスアダプタ (HBA) で RAID を構成、モニター、および保守できます。	
<p>Oracle Hardware Management Pack</p> <p>Oracle Hardware Management Pack は、サーバーを管理および構成する際に役立つツールを備えています。次のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> オペレーティングシステムレベルで管理エージェントを使用すると、Simple Network Management Protocol (SNMP) を介したサーバーハードウェアの帯域内モニタリングが可能になります。この情報を使用して、サーバーをデータセンター管理インフラストラクチャーに統合できます。 管理エージェントを使用すると、RAID アレイを含むサーバーのストレージデバイスの帯域内モニタリングが可能になります。この情報は、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) の Web インタフェースまたはコマンド行インタフェース (CLI) から表示できます。 ホストのオペレーティングシステムで動作し、ホストの BIOS CMOS 設定、ホストのブート順序、および一部のサービスプロセッサ (SP) 設定を構成する、BIOS 構成ツールを使用します。 IPMItool を使用して、IPMI プロトコルを介してサーバーのサービスプロセッサにアクセスし、管理タスクを実行します。 	通常以外
<p>Intel NIC チーミング</p> <p>サーバー上のネットワークインタフェースを、仮想インタフェースと呼ばれる物理ポートのチームにグループ化できます。</p>	通常

デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール

InstallPack アプリケーションには、プラットフォーム固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールするためのインストールウィザードが用意されています。このアプリケーションは Oracle System Assistant に含まれており、My Oracle Support からダウンロードすることもできます。ダウンロード手順については、『[設置](#)』、「[サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手](#)」を参照してください。

サーバーが Oracle System Assistant を備えており、それを使用してオペレーティングシステムをインストールした場合、必要なプラットフォーム固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアは自動的にインストールされます。しかし、サーバーが Oracle System Assistant を備えていない場合は、OS (オペレーティングシステム) パックに含まれている InstallPack を使用して、プラットフォーム固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールできます。OS パックを取得する手順については、『[設置](#)』、「[サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手](#)」を参照してください。

次の手順で、InstallPack を使用して、デバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

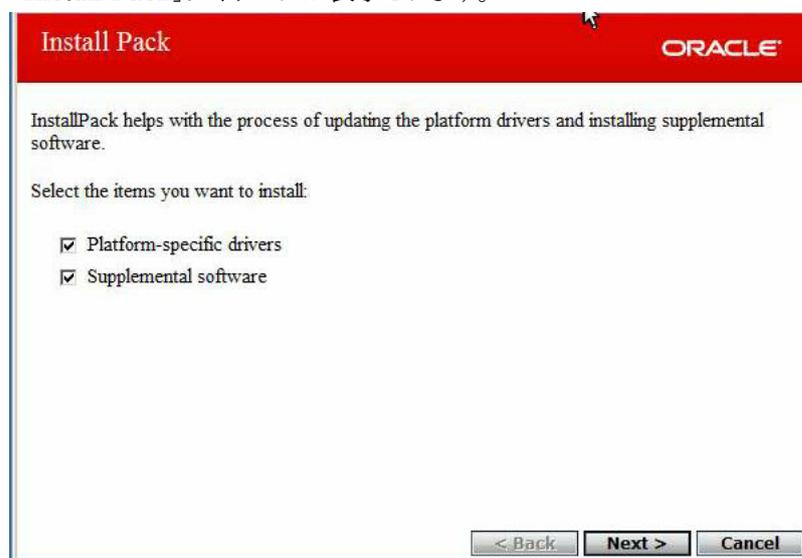
- [53 ページの「サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする」](#)

関連情報

- [51 ページの「追加ソフトウェアコンポーネントオプション」](#)

▼ サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする

1. インストールパックウィザードの実行可能ファイル **InstallPack.hta** をクリックします。「Install Pack」ダイアログが表示されます。



2. 「Install Pack」ダイアログで、「**Next**」をクリックして、デフォルトのインストール可能な項目を受け入れます。



注記

最新バージョンのドライバを確実にインストールするために、「デフォルトのインストール可能な項目」を常に受け入れるようにしてください。

インストールパックの注意ダイアログが表示されます。

3. 画面に表示されるプロンプトに従い、デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストールを完了します。

Intel NIC チーミングの構成

環境に合わせて Intel NIC チーミングを設定する方法の詳細は、Advanced Networking Services Teaming に関する次の Intel 接続 Web ページを参照してください。

<http://www.intel.com/support/network/sb/CS-009747.htm>

また、使用しているサーバーのネットワークアダプタ用に、Intel のネットワーク接続のユーザーガイド一式を次からダウンロードできます。

<http://www.intel.com/support/network/sb/cs-009715.htm>

索引

シンボル

- Windows OS
 - サポートされているオペレーティングシステム, 8
- Windows Server 2008
 - PXE ネットワークインストール, 47
 - メディアを使用したインストール, 26, 30, 38
- Windows 配備サービス
 - Windows OS, 16

あ

- インストール
 - Oracle Enterprise Manager Ops Center
 - Windows OS, 14
 - Oracle System Assistant
 - Windows OS, 15
 - Oracle System Assistant の使用
 - Windows OS, 26
 - PXE ネットワークブートの使用
 - Windows OS, 47
 - インストール先の選択
 - Windows OS, 33
 - インストールの種類を選択
 - Windows OS, 32, 42
 - オプション
 - Windows OS, 14
 - 言語の選択
 - Windows OS, 32, 40
 - 手動
 - Windows OS, 15
 - タスクマップ
 - Windows OS, 7
 - 単一のサーバー
 - Windows OS, 14, 15
 - 特定のオペレーティングシステムの選択
 - Windows OS, 32, 41
 - ドライバのロード
 - Windows OS, 34
 - メディアの使用
 - Windows OS, 29
 - ローカルまたはリモートのメディアの使用, 29, 38
- インストール後
 - Intel NIC チーミングの構成
 - Windows OS, 53
 - タスクの概要
 - Windows OS, 51
 - 追加ソフトウェアのインストール
 - Windows OS, 51, 52
 - デバイスドライバのインストール
 - Windows OS, 52
- インストール先
 - オプション
 - Windows OS, 13

- ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイスの設定
 - Windows OS, 14
- ローカルストレージドライブの設定
 - Windows OS, 14
- インストール先オプション
 - 選択
 - Windows OS, 13
- インストールバック
 - 追加ソフトウェアのインストール
 - Windows OS, 52
- インストール方法
 - ブートメディアオプション, 11
- オペレーティングシステムのインストール
 - 概要, 7
 - サポートされているオペレーティングシステム, 8
 - オペレーティングシステムのインストールの概要, 7

か

- 構成
 - Intel NIC チーミング
 - Windows OS, 53
 - RAID
 - Windows OS, 23
- コンソール表示
 - オプション
 - Windows OS, 9
- コンソール表示オプション
 - 選択
 - Windows OS, 9

さ

- サーバー, 電源のリセット, 48
- サポートされているオペレーティングシステム, 8
 - Windows OS, 8

た

- タスクマップ
 - インストール
 - Windows OS, 7
- 追加ソフトウェア
 - Hardware Management Pack
 - Windows OS, 52
 - LSI MegaRAID Storage Manager
 - Windows OS, 52
 - インストール
 - Windows OS, 52
- 追加ソフトウェアオプション
 - Windows OS, 51
- デバイスドライバ
 - ドライバが必要な SAS PCIe HBA, 9
 - ロード手順
 - Windows OS, 9

は

ブートメディア

要件

Windows OS, 11

ブートメディアオプション

選択

Windows OS, 11

ブートメディアのインストール, 11

ら

リモートコンソール

設定

Windows OS, 10

リモートブートメディア

設定

Windows OS, 12

ローカルコンソール

設定

Windows OS, 10

ローカルブートメディア

設定, 12

要件

Windows OS, 11